

まえがき

土木学会は本年11月で創立70周年を迎えることになった。大正3（1914）年に工学会から分離したのであるが、工学会に属していた時期を加えると105年と1世紀を越える歴史をもつことになる。明治時代の土木技術者は、土木こそ工学の中枢であるとの自負の念にもえ、工学会即土木学会との信念のもとに学会活動を行ってきた。一方、学問・技術の発展・専門化の趨勢により、明治18年以降、鉱業、建築、電気、船舶、機械、工業化学が相次いで工学会より分離独立していった。こうした情勢の中でも当時の土木技術者は、あえて工学会を離れることなく工学全般の向上のために努力してきたが、時代の動きに対応するため、ようやく大正3年に至って、土木学会の創立にふみきったのである。専門分化の潮流のはげしい今日にあっても総合化を追求してきた先輩諸賢の言動には、なお、傾聴すべきものがあると思う。

土木学会略史は、創立20周年、25周年、40周年、50周年、60周年と5回にわたって編集されている。本略史は創立70周年を記念して前記の略史に続くものとして計画されたものである。編集は事務局の担当とし、60周年史をもとに昭和50年より現在に至る10年間の内容を中心にとりまとめ最近の学会活動を比較的くわしく書くよう努めたが、一部それ以前にさかのぼったところもある。

昭和50年代は48年のオイルショックのあとをうけて、総需要抑制の厳しい情勢下にはじまり低成長の時代を迎えたが、40年代のあまりにも早すぎた高度成長の時期に比べ、全般的に落ち着きを取りもどすとともに、先端技術に象徴されるように、新しい技術革新への幕明けの時代でもあった。この間にあって土木学会は、会員諸兄の努力により、地味ではあるが堅実な歩みを続け、土木界の発展に貢献してきたことはご同慶の至りである。

特に本年は、創立70周年を記念して新たに土木会館が会員および関連各位のご協力により建設され、80周年に向け新しいスタートを切ることとなった。これを契機に土木学会がますます発展を続けることを念願するものである。

昭和 59 年 10 月

専務理事 川 越 達 雄